

NEWS RELEASE

平成 20 年 1 月 4 日

**2008 年を「変革」スタートの年とし、強い意志で取り組んでいく。
電通グループを挙げて「課題解決力の強化」と「事業の育成」を。**

— 「電通グループの次なる成長に向けて」 電通新年仕事始式で高嶋社長があいさつ—

株式会社電通（高嶋達佳社長）の平成 20 年仕事始式が、1 月 4 日午前 9 時 50 分から東京本社他で開催された。東京本社の仕事始式は汐留本社ビル 1 階電通ホールで行われ、高嶋社長が年頭の所信を述べた。要旨は以下のとおり。



今年は 8 月に北京オリンピックが開催され、アメリカとロシアで大統領選挙が行われる。4 年に 1 度訪れるオリンピックとアメリカ大統領選挙の年には、広告業界がグローバルな規模で活性化するといわれている。今年も広告業界が活発化することに期待する。

デジタル化とグローバル化への取り組みが今後の電通グループの成長に不可欠と申し上げてきた。昨年は、オプト社との資本業務提携の強化、米国・英国アティック社の経営権の取得を進めたが、今後も引き続きグローバルとデジタルの領域で多面的な投資や事業拡大を図っていく。

また、提供するサービス領域の広さとその品質、そしてそれらを統合する力など、電通グループが日本国内で培ってきた総合広告コミュニケーション・グループとしての強みを今後はグローバルに提供し、クライアントの信頼を獲得していきたい。

電通グループがさらなる成長を続けるためには、これまでどおりの事業の延長線上に留まっていってはならない。デジタル化によって変貌する事業環境を見据え、さらにグローバルな視点を持ちながら、電通グループの強みと足りないものをしっかりと認識していくことが必要である。

電通グループが強化すべきポイントの一つは「課題解決力」である。

クライアントは広告枠ではなく課題解決策を求めており、いまこそ電通グループ一人一人がクリエイティビティを発揮して仕事に臨んでほしい。多くの生活者に効率的にメッセージを届けるマスメディアの本質を生かしながら、さらにクリエイティブなアイデアやプロモーションなどを組み合わせれば、クライアントのより多くの課題を解決できる。生活者と広告の多様な接点を、自由な発想で結び付けたソリューションへのニーズも高まっており、こうしたサービスをクライアントに提供できる体制や人材の育成を早急に整えていく。

また、プランニングから実施に至る過程におけるサービスの品質やコスト競争力を向上させるために、事業領域ごとにグループ各社が電通と共通の視点で戦略を立案し、事業に取り組んでいくための適切な体制の構築に着手したい。同時に、中国やインドをはじめ、グローバルベースでも総合的な広告コミュニケーション・サービスを提供できる体制整備を進めていく。

二つ目のポイントとしては、「事業の育成」の強化を図る。生活者、クライアント、メディアの交差点となり、新しいビジネス・モデルを創り出していくことこそ電通グループが持つ逞しさであり、強さの原点である。リスクを取りながら果敢にチャレンジする人材が、電通グループの中から数多く出てくることを期待したい。新規事業を支援するインキュベーション機能の仕組みを早急に立ち上げていく。

これらに取り組むに当たり、戦略性の高い分野への重点的な人材の配置は喫緊の課題である。組織面においても、これまで以上に会社間や部門間の円滑な連携を進めるため、組織再編に着手したい。

新しい時代に向けての課題と道筋は明らかであり、2008年を「変革」スタートの年として強い意志で取り組む。

事業面だけではなく、企業として社会的な役割を果たしていくことも大切である。今年7月には環境をメイン・テーマとした洞爺湖サミットが開催されるが、電通グループはコミュニケーション企業としてこれからも環境問題に積極的に取り組んでいく。